

## 藤学園環境宣言

藤学園の建学の土台であるカトリックの精神は、神によって創られた自然の秩序の尊重と人間の生命の尊厳を教えています。また、藤学園の精神的父ともいえるアシジの聖フランシスコはすべての被造物の中に働かれる神を賛美し、環境の保護者と宣言されました。

1972年のストックホルム国連人間環境会議は、『人は環境の創造物であると同時に、環境の形成者です。環境は人間の生存を支えるとともに、知的、道徳的、社会的、精神的な成長の機会を与えてくれます。自然のままの環境と人によって作られた環境は、共に人間の福祉、基本的人権ひいては、生存権そのものの享受のための必要条件であるといえます』と述べています。

しかし、現在人類共同体が住む地球環境は、真に人類が幸福に健康に生きていくことが保障されるには、不完全な状態にあるといえます。

自然への畏敬の念を持たずに、個人・集団および国家が全人類共通の善を無視して利己的かつ貪欲な利益追求に走る限り、地球環境は神の望まれるような環境とはかけ離れたものとなります。

ここに藤学園は、人間が健康で安らぎや潤いを実感できる生活を営む上で必要不可欠な、美しくよき地球環境を人類共通の遺産として持続的に享受できるよう、私たち人類の家である地球を守るために、次のように取り組むことを宣言します。

- ・ 私たちは、地球を守る心、自然と共生する心、神から与えられた資源を大切にすする“もったいない”精神を大切にします。
- ・ 私たちは、古くかつ新しいライフスタイルとして、省エネルギー、省資源を目指し、無駄を省くよう努めます。
- ・ 私たちは、次世代を担う学生・生徒・園児たちに、自然環境の科学的な仕組みについての正しい理解を育て、自然の神秘に対する畏敬の念を芽生えさせ、自然を大切にすする心、資源を大事にする精神、そしてお互いに分かち合う心を培うよう努めます。

2008年12月6日